

会 議 録				
平成28年度第2回 生活支援事業協議体	日 時	平成28年9月12日(月) 14時00分～16時00分	場 所	小金井市役所 第2庁舎 801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	高良委員長(東京学芸大学) 近江屋委員(ボランティアセンター) 阿久津委員(地域福祉コーディネーター) 森田委員(また明日デイホーム) 清水委員(民生委員児童委員協議会) 高橋委員(さくら体操リーダー) 第2層コーディネーター 恩田氏(小金井きた地域包括支援センター) 中川氏(小金井きた地域包括支援センター) 金子氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 中村氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 馬場氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 雨宮氏(小金井にし地域包括支援センター)		
	事務局	鈴木高齢福祉担当課長、本木包括支援係長、松原、本山(介護福祉課)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可	傍聴者数		
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1)報告事項				
① 介護支援ボランティアポイント事業開始のお知らせ				
② 「シニアのための地域とつながる応援ブック」暫定版のお知らせと情報共有				
③ ベンチの設置について				
④ 活動記録の書式の共有				
⑤ 今年度の取り組み目標の設定について				
(2)協議事項				
① 評価シートの作成について・目標設定と評価方法の検討				
② ひがし地区の資源開発における展開方法の協議				

(3) 次回協議体の開催予定

3 閉会

1 開会

2 議題

(1) 報告事項

① 介護支援ボランティアポイント事業開始のお知らせ

(松原)

介護支援ボランティアポイント事業を8月より開始しました。この事業は65歳以上の高齢者の健康増進、生きがいづくり、社会参加の推進を目的とし、介護施設等でボランティアをした場合やさくら体操のリーダーさんに、さくらポイントと交換が可能なスタンプを付与していくという事業です。

(高良委員長)

さくらポイントとは何で、何に使えるのですか？

(本木包括支援係長)

さくらポイントカードというのは、商工会が独自で数年前から導入しているものでして、商工会に加入している一部の商店で、貯めたポイントで買い物ができるといったものになります。

小金井市のさくらポイントは、あまり利用されていないというお話を伺っていただき、この事業でさくらポイントを活用することにより利用者を増やせればという考えから、さくらポイントを利用することとなりました。また、さくらポイントを商品に交換できたり、金券としても使用できますし、商工会の方でいろんなプランを用意しているそうです。

② 「シニアのための地域とつながる応援ブック」 暫定版のお知らせと情報共有

(松原)

7月に「シニアのための地域とつながる応援ブック」の暫定版が完成しまして、市や各包括、社会福祉協議会の窓口にも置かせていただいて配布している状況です。来年度の正規版の発行に向けまして、皆様から御意見をいただければと思います。

(清水委員)

緑町4丁目町会のサロンがあるのですが、掲載されていないようです。

(恩田氏)

一応掲載する上で、お知らせ文とPRの内容を御協力くださいと御訪問したり、ポストに手紙を入れさせていただいていますけれども、そのサロンに関しては、お返事

がなくて、掲載は、今回見送らせていただきました。

(本山)

きた地域のコーディネーターさんからまた改めまして、御連絡させていただいて、来年度に向けてというところで、確認をさせていただこうと思います。

(高良委員長)

中には忘れてしまっていて、返答していないということも考えられますので、例えば返送は必ずしてもらおうようにするといいかもしれませんね。

私のほうからもいくつか気になった点を申し上げます。

一点目は、さくら体操の自主グループについて、それぞれの特徴が活動内容とPRに出ているがあるので、どちらにどういう内容を入れるかお伝えしてから書いてもらったほうが良いかと思います。

二点目は、12ページの集会施設の紹介で表現の仕方が縦に見るのか、横に見るのかによって、混乱を招く可能性があるのではないかと思います。

三点目は、個人名、個人の御自宅、個人のお電話番号が載せている資源があります。個人情報に掲載するにあたって何かしらの対応を考えなければならないと思います。

③ベンチの設置について

(本山)

前回、第1回目の協議体のところで、皆様からいろいろな御意見を挙げていただきましたが、その内容を資料2にまとめさせていただきました。今、駅前の再開発をしておりますが、そこにベンチを設置していく上で反映させていくとなっております。

④活動記録の書式の共有

(高良委員長)

活動記録の書式の共有につきまして、お願いいたします。

(本山)

介護支援ボランティアポイント制度におけるコーディネート業務も第2層コーディネーターの皆さんに担っていただいております。その記録を残す上で資料3のようなシートを使うことになりました。こちらに毎月対応していただいた人数をこの表に入れていただくような形になっております。

⑤今年度の取り組み目標の設定について

(中村氏)

資料4と書いてある南エリアの資料をごらんください。

まず1枚目の地域課題というところで、昨年度と同じ内容を取り上げています。裏

面では、地域の目標として、バスに乗らず、徒歩や自転車での範囲で出かけられる拠点をふやすということ、当面の目標にしていこうという話になっています。

そのための短期目標としては、①地域にある課題を調査していく。②エリア内の地域資源の確認、把握をする。③地域住民が考える地域課題を理解する。④居場所を開催するという4つを上げています。それにあわせる形で、29年度までの流れの中で、行動目標ということで書かせていただいています。また、昨年度、聞き取り調査を行い、その結果をもとに地域ケア会議を開催しました。今年も、「集いの場所が少ない」ということと、「買い物できる場所が少ない」という、2つの課題について参加者に考えて頂き、課題について掘り下げていく予定であります。

そのほか、昨年の地域ケア会議の中で、「もっと活動の場所があれば」という要望をいただいたエリアがあります。そのエリアにおいて、地域を考える会と名前をつけさせていただいて、話し合いをしていますので、その会の開催の内容を報告させていただいております。また、みなみエリアの中にある専門学校から、地域の住民の方と協力をして、居場所をつくりたいというお誘いがあり、去年から話し合いを進めています。今のところ、体いきいき教室という名前の体操教室を1つ、開催しています。

(高良委員長)

ありがとうございます。それでは引き続き、にしエリア、お願いします。

(雨宮氏)

にし包括は平成27年度より、地域課題の把握方法をGISから独自のアンケートに替え、地域ケア会議などで課題の収集を行いました。

その結果出てきた地域課題を三つに絞ると、「地域とのかかわりが少ない人が多い」、「他者との交流が少ない人が多い」、「転倒の不安があるため、外出の機会が少ない人が多い」というものでした。これらの原因としては、近隣に余暇活動などができる場所を知らなかったり、そういった場所が少ないという問題、近所つき合いが昔ほど盛んではないという問題、近距離に公共の交通機関がなかったり、交通の便が悪い地域があるという問題であると分析しました。

そこで、28年度の目標としましては、社会資源を可視化し、情報を発信していこうと考えています。これには、シニアのための地域とつながる応援ブックの活用を考えております。

また、地域の高齢者のニーズを把握するという事で、町会、自治会にこちらから出向いて行って、いろいろな情報の聞き取りをする予定であります。

地域高齢者が集まれる場所を探すことについては、公共の場所は利用率が高くなっておりますので、それ以外の公共の場以外で集まれる場所を探していく予定です。

最後に、地域活動の担い手となり得る元気高齢者を発掘するために、ボランティアポイントの情報提供をしながら、地域で実際に活動していただける高齢者の方々を探

していきたいと考えています。また、ファシリテーターとの連携も考えております。

(高良委員長)

ありがとうございました。では続きまして、きたエリア、お願いします。

(恩田氏)

きた包括エリアでは、6月に開催した小地域ケア会議での話し合いの結果をもとに、地域課題を新たに変更しています。その中で、支え合い活動の事例発表を聞いて、「そういう活動があることを全く知らなかった」という意見と、「知ってはいたが、そこに行くまでの手段が無くて、その活動場所に行けない」という意見が挙がっていたのでその意見に沿った課題を挙げています。また、課題解決のための短期目標としては、まず資源を必要としている人に向けて、情報をいかに発信していくかということと、活動同士のネットワークづくりと、新たな活動の立ち上げ支援ということの3つを挙げています。

また、シニアのための地域とつながる応援ブックの活用をして、情報の発信、マッチングなどをしていくほか、住民懇談会や地域福祉ファシリテーターの連絡会に出席して、情報を共有していこうと思っています。

(高良委員長)

ありがとうございました。ではひがしエリア、お願いします。

(金子氏)

ひがし包括では、GISデータから導き出されました地域課題を、今年度も踏襲する形をとることにいたしました。目標については、こちらも計画年度のまま、①、②、③までは継続という形で残しております。

到達目標(短期目標)は、今ある社会資源を活用し、居場所づくりをするということで、昨年度は地域の自治会や商店街さんと懇談する場をつくり、意見交換や地域の方についてお話をする場を設けました。今年の1月にも、同様に行いまして、成果として瓦版の作成、発行を行いました。また、新小金井駅ロータリーで、地域の園児さんや高齢者の方と体操する機会を設けました。

それに加え、地域の商店街さんとの顔の見える関係づくりや情報を発信する機会、地域の方から情報をいただくということで、商店街回りを月に1回行っています。

この結果につきまして、来年29年4月あたりに、評価といたしまして、再度お集まりいただいた皆さんと顔を合わせて御意見をいただこうと思っています。

また今年度より、新しい活動の取り組みということで、つきみの園で青空さくら体操実施後に、お茶を飲む機会を設けていただけるようなアナウンスをしていくとともに、食事の提供をしようと思っています。

そのほか、小地域ケア会議を7月に行いしましたが、坂下地区でも、居場所づくりをしたいということで、坂下地域での新しい新会場、自主グループを立ち上げようとい

うことで動いております。

(2) 協議事項

①評価シートの作成について・目標設定と評価方法の検討

(高良委員長)

では、シートの検討に移らせていただきます。まず私の感想として、評価シートというのは、行動的な部分での評価をする必要はなくて、実際にそれでどういうふうな効果が生まれたのかというのがわかるシートを、もう一枚別個につくるという考え方になるのではないかと思うのです。もしこの様式が慣れていらっしゃるということであれば、皆さんの御意見も踏まえて、これを修正するという形をとったほうがいいのではないかと思うのですが、社協さんから見てこちらの様式はいかがですか？

(近江屋委員)

ここまでやっていないです。目標を立ててとか、事業計画とかはつくっているのですけれども、もっと大ざっぱですので、一個一個の行動に目標とはやっていないので、かなり具体的と思って見ていました。

(高良委員長)

それはいいことだと思うのですけれども、次回まででもよければ、これをモディファイして、こうやったらいいのにという案を作ってきますが、それでいいですか。

(本山)

お願いします。

(高良委員長)

では、案をつくってきます。また、この評価シートというのは、評価内容としてはどのようなものが適切でしょうか。皆様方、実際に活動されている中で、御意見をいただければと思います。まずは実際に入れ込んでみていただいた、にしエリアの雨宮さん、いかがでしょうか。

(雨宮氏)

プロセスの評価に関しては、お話しやすかったです。結果の評価のところ、1番と2番、具体的に評価がしやすいもの、だから、3番については、意向というところがありますので、高齢者の方に確認しなければ、難しいというところがあります。4番のそれぞれの場所に、何人高齢者が利用したかというのは、数値的に把握するのは、1包括だけでは難しいというところです。5番目の1日平均という大まかな数値であれば、町会さんとかに確認しながら、できるかと思いました。

(高良委員長)

何人の人と交流したかなどは難しいですね。これはかなり難しいと思うのです。だから、常駐で誰かしらないと難しいかと思います。

(雨宮氏)

それと4月から新しく立ち上げた場所で、最初にこういった効果測定をしていないのですが、途中からやっていいのでしょうか？

(高良委員長)

新しくつくられたところに関しては、前に例えば一番最初に来られたときに、アンケートに答えていただけますかみたいなことにしておいて、あと何カ月かたってから、やっていただくというのがベストではありますが、もう途中でということであるならば、別に比較を見るというよりも、今の状態としてどうなのかということを見ていくということになると思います。なので、1番の満足度調査とかは、できてしまうのだと思います。

(森田委員)

例えば飲食店とかに行っても、よい、普通、悪いという簡単な項目で、○をつけるだけのアンケートを置いておいてあり、そういったものなら答えやすいのではないかと思います。

(高良委員長)

ありがとうございます。効果測定の中でも、1番のよく使われる満足度調査のものの簡単版みたいなものを置いておくというのは、いい案かもしれないです。それでは、まずは計画シートと評価シートのほうを連動させて、プロセス評価などを一緒に入れ込めるようであれば、入れ込むようにします。

②ひがし地区の資源開発における展開方法の協議

(高良委員長)

それでは、ひがし地区の資源開発における展開方法の協議につきまして、ひがし地区さん、お願いします。

(金子氏)

7月6日に小地域ケア会議を開催したのですが、中町1丁目4丁目、はけの道地区を考える会というテーマで実施いたしました。結果、地域の方に多く出席をしていただきましたので、直に地域の方から、地域の課題ということで、強み・弱みというところをお伺いしました。その中で、1番の課題としましては、移動手段が無いとためC o C oバスの本数をふやしてほしいという声と、商店が近所にないため買い物に困っている課題が上がってきました。実際に、中町1丁目4丁目地域の特性としまして、坂下地域になっており、そのエリアを通過しているC o C oバス自体が、最大11人までの乗車しかできないので、待っていても取り残されるということがあるそうです。それを踏まえて、交通対策課に相談をしたところ、本年度の4月から8時35分便が

1本増発しましたとのことですが、ただ、実際にそのエリアの方にお声を聞いたところ、御高齢の方では、余り利用できない時間帯ということでした。そこで、再度交通対策課に相談をしたところ、コミュニティーバスの運営については民間バス会社との共存があるということで増やすのは難しいとのことでした。

2点目につきましては、買い物難民への支援の方法ということで、移動販売車を検討できないかと商工会に御相談をしたところ、坂下地区で実際に動いているという御報告をいただきました。そのほか、実際に移動販売車を動かすためには、アンケート調査が必要だということと、地域全体の意見を集める必要があるということでした。

(高良委員長)

ありがとうございます。それでは、まずは何か全体の御報告の中での御質問等がありましたら、お願いします。

(森田委員)

C o C oバスについて、コミュニティーバスの運営が赤字であるという点、伝え聞くとこころでありますけれども、ここの中町エリアが赤字なのでしょうか。

(鈴木高齢福祉担当課長)

C o C oバスの件については、都市整備部交通対策課の管轄になります。私からはコメントしづらいですが、さまざまな課題があるのではないのでしょうか。

(高良委員長)

ありがとうございます。今の段階では、なかなか難しいという状況にあるということですので、少なくとも必要性があるということ伝えていくということは必要だろうと思います。その一方で、別の方法を考えなければいけないということになると思うのですけれども、どうでしょうか。何か案があれば、どうぞ。

(阿久津委員)

例えば食事をして、買い物をして帰るとい、イベントを企画し参加者を募るといのはどうでしょうか？

(高良委員長)

ありがとうございます。森田さん、何かありますか。

(森田委員)

ツアーという形という案もすごくいいと思うのですが、それは移動する手段も自費でみんなで出し合って、1台確保してという感じですかね。乗り合いタクシーみたいな感じですか。

(阿久津委員)

メインはイベントなので、毎月できるという仕組みがあると、そこに高齢の方がそこで買い物に行けるという形で、全部が全部負担ではなくて、それこそ半価という形があれば理想なのではないのでしょうか。

(高良委員長)

その前に確認ですが、日々の買い物も困っているのですか。

(金子氏)

そうですね。大変とはおっしゃっていますね。

(高良委員長)

ということは、今阿久津さんがおっしゃってくださっているような、イベントとかというのは、いろんな人たちと交流したりするという意味でのニーズを満たしていくという部分では必要だと思いますが、日々の買物が困っているということに関しては、別に対応策を考えないといけないということですね。最初に上げていただいた移動販売車が坂下地区で実施済みとの情報を得るということは、まだ確認はできていないということですか。

(金子氏)

そうなのです。御連絡がついていないので、確認はとれていません。

(高良委員長)

ということは、もしもこれがちゃんと実施できていて、ちゃんと機能しているということになれば、とりあえずは日々の買物の部分のニーズに関しては、対処として、とりあえずはなされているということになりますね。

(中村氏)

みなみ包括のエリアも、坂下がほとんどなので、実際に移動販売車が来ているエリアが幾つかあります。商工会さんに登録をされていて、移動販売をしていらっしゃる方が、前原2丁目のほうにいます。

ただ、前原1～2丁目は、買物ができる資源がすごく少ないのですけれども、若い層の方々は、宅配をうまく使ったり、府中に出たりするなどしていますが、高齢の方については買い物にでかけるのが難しいのが現状です。またそうした人たちを対象とした場合に、採算を採るのが難しいというお話を聞いています。

(高橋委員)

加齢とともに生活圏が狭まって、生活そのものに、張りとか、潤いが無い。まさに歩かないから、歩けなくなるという悪循環に陥る方が多いのではないのでしょうか？

そういうときに、先ほど買い物ツアーのお話などは、ニーズとしてあるのではないかと思います。やはり高齢者にとって買い物や外出は楽しいものですので、そういった機会を作っていくことも重要かと思います。

(3) 次回協議体の開催予定

後日、12月13日(火) 14時から16時までに決定

3 閉会